

## 第5 A (小) 分科会 —教職員の専門性に関する課題—

提案主題 組織的な学校運営を支える教職員の専門性をいかにして発揮させるか

司会者	玖珠町立小田小学校	黒木賢二
提言者	玖珠町立八幡小学校	穴井信義
助言者	日田市立大明中学校校長	秋月順一
記録者	九重町立飯田小学校	安達昌利

### 1 協議の柱

- ・学校組織としてリーダーをどう育てていくか
- ・リーダーを育てるために教頭はどう関わっていくか

### 2 協議の実際

#### (1) ミドルリーダーの育成

- ・ミドルリーダーを中心に各チーム毎に職員構成を考え、明確なミッションを示すことが重要であり、それにより、学校教育目標実現に向けた成果を引き出すとともに、ミドルリーダーを中心とした実践が児童・生徒や学校によい影響を与えるという実感をもたせることでリーダーの意欲化につなげる。
- ・学校規模によって教務主任の活用が難しい点がある。小規模校ほど教務主任が抱えている仕事が多く、学校組織全体への視点が持ちにくい。まずは多忙感を取り除くために、仕事の分担とともに、任せることで学校経営への参画意識をもたせ、教頭として丁寧な指導と助言を心がけて行くことが大切である。

#### (2) リーダー育成のための教頭としての関わり

- ・時間設定、協議内容、といった環境づくりも教頭の役割である。学期、年間を見通した会議や内容の設定、PDCAのチェック、リーダーへの的確なアドバイスと肯定的評価等、教頭の指導や助言が重要である。

### 3 指導助言

- ・毎月の行動計画・取組の進捗状況の可視化や諸会議それぞれの性格を明らかにして、ルーティン化していることが他校に大いに参考になる。教頭として、リーダーを育成するための環境づくりを整えていこうとしていることがよくわかる提言であった。
- ・教頭は、ミドルリーダーを育成するために学校の喫緊の教育課題は何であることを適確につかみ、その課題解決に向けた各リーダーの役割を明確にすることと、協議の時間や場の設定をすることが重要である。
- ・校長とともに「『芯の通った学校組織』第4フェーズにおける『8つの観点』」の視点で学校運営に参画していくことが教頭に求められている。教頭は、学校教育目標の着実な達成に向けて、学校長の方向性を明示しながら自分の特性に合わせ、職員と双方向のコミュニケーションをしっかりとおこなうことも必要である。